

はじめに —— いよいよ時代はパラダイムシフトを迎える

この国はこの先、一体どうなっていくのだろう、今、多くの日本人が漠然とした不安の中にいます。

日本は、第二次世界大戦で敗れた後、大きな戦乱の舞台となることもなく、奇跡とも言われる目覚ましい復興を遂げ、世界有数の経済大国への道を歩み続けてきました。

その結果、日本人は、便利で安価な生活用品やおいしい食べ物に囲まれ、表面的には豊かな生活を享受できるようになりました。

しかし、私たちは本当の幸せを手に入れることができたのでしょうか。

世は拝金主義、合理主義に染まり、「今だけカネだけ自分だけ」の風潮にほんろう翻弄ほんろうされているうちに、日本人の生き方からは、どんどん余裕が失われていきました。

勤労者の立場は年々弱くなり、低賃金でストレスの多い仕事や借金に追われ、疲弊していく人が目立って増えてきました。他人との関わりが薄れ、孤独に陥る人も増えていきます。

子供の虐待やいじめなど、人の尊厳や命を軽んじる事件も頻発し、残念なことに、すっかり「人に優しくない」社会になってしまったようです。

日本人が本来持っていたはずの互助、互敬の精神や自信と誇りも失われていく一方です。ついには、我が国が、世界でも指折りの超大国であることすら忘れてしまったかのようにも思えます。

金儲けが優先される社会は、貴重な食糧の流通にも過剰な負担をかけます。食料の六割以上を輸入に頼っているというのに、食品廃棄物等は一年間に二五五〇万トン、うち六一二万トンは、まだ食べられるのに廃棄される食品で、これは世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量の、何と一・六倍に相当します。

今や世界語となった日本の美德「MOTTAINAI」精神は風前の灯です。
心ばかりではありません。

巷には、農薬や食品添加物まみれの食品が溢れ、産業や生活に伴って廃棄される有害物質による水や大気、土壌の汚染も深刻です。環境の悪化により、私たちの身体もどんどん蝕まれていきます。

社会生活に伴う精神的ストレスに加え、食、環境の劣化も伴い、残念ながら、我が国

においては、がんによる死亡は増加の一途を辿っています。

第二次世界大戦の終戦から七五年を経過した今、日本人は自らが尊重すべき大切な考え方と生き方を見失い、真の危機を迎えたと言えるのではないのでしょうか。

このような風潮は日本だけではありません。

地球の上では、貧富の差は広がる一方です。今この瞬間にも、多くの人が飢餓や疫病、紛争に苦しみ、命を落としています。国同士の関係を見ても、足ることを知らない強烈なエゴがぶつかり合い、絶えまない争いが続き、事態は悪化の一途を辿っています。

経済効率が優先される社会では、自然も破壊され続けていきます。今も世界のどこかで広大な熱帯雨林が失われ、海洋汚染も深刻の度を増すばかりです。

科学技術万能思想のもと、このまま拝金・営利主義中心の社会が続けば、そして私たちが、仕方がないと受け身の姿勢ですべてを受け入れていたら、人類は破滅に向かうしかありません。

人類による身勝手な環境破壊が、地球の恒常性を損ない、その結果として気候変動を生じさせ、生態系に重大な影響を与えていることに、私たちはもう気づかなければなりません。地球の征服者であるかのような人類の不遜な行動が、環境に過大な負担をかけ

るばかりではなく、人類自らの生存をも危うくしているのです。

この先も地球の環境を守り、地球に住むものすべての幸せと繁栄を目指すには、私たちは、これまで世を支配してきた考え方や価値観の大転換、パラダイムシフトと真剣に向き合い、これを達成していかなくてはなりません。

そのためには、私たちはまず、これまでの世の中をコントロールしてきた物質中心主義、拝金主義に代わる社会理念を探し出さなければなりません。しかも早急に見つけ出す必要があります。なぜなら、私たちに残された時間は決して長くはないからです。

では一体、今の時代に必要とされる理念とはどんなものなのでしょうか。存亡の危機に立たされる人類を救う手立てはあるのでしょうか。

この問いかけに答えることは、じつはそれほど難しいことはありません。

目に見えるものに価値を見出す物質中心主義が持て囃され、世の中の行き詰まりを招いたのなら、そのバランスを修正するためには、その真反対の理念、つまり、「靈性に根差した生き方」に目を向ける以外にはないからです。

「靈性に根差した生き方」とは、目に見えない存在に思いを馳せ、自らを生かす大自然に感謝を捧げ、愛と調和を尊重して謙虚に生きる、そしてこのような日々の営みに限り

ない喜びを感じる生き方であり、豊かな自然の恵みに溢れた日本列島の上で、私たち日本人が縄文の昔から慣れ親しんできた生活そのものです。

弱肉強食の経済体制から、愛に溢れた新しい仕組みの創設へ、その橋渡しを主導する者は、霊性を尊ぶ精神がDNAの奥深くにまで刻み込まれた私たち日本人において他にはいないのです。

残念ながら、近年日本人の精神性は貶められ続け、民族としての矜持も失われつつあります。

しかし、人類が危機を乗り越え、輝かしい未来を迎えることができるかどうかは、日本人が、自信と誇りを取り戻し、自らの本質と使命に気づき目覚めることができるのか、すべてこの一点にかかっています。

本書を通じ、皆様が、日本人として生まれたことに少しでも喜びを感じていただけるようになったら、筆者としてこれ以上の幸せはありません。